

*本欄の記事は各社公式サイト等から抜粋

◇展示会「PV2019」で電気電子情報工学科の学生が研究成果を発表 神奈川工科大学／7月10日付け

神奈川工科大学は、7月10日～12日の3日間、パシフィコ横浜で開催された、太陽光発電関連の主要な展示会「PV2019 再生可能エネルギー世界展示会」に電気電子情報工学科板子研究室が展示を行った。太陽光発電システムにおいて、企業と共同開発したIoTを活用したスマートPVアレイシステムの研究成果を大学院2年生の竹田雄亮さん、学部4年生の傳刀聖さん、佐藤巧さんらが発表した。

また、学部4年生のアルハビブアリさんはAIによる新しい太陽光発電システムの異常検出法の研究成果を発表するなど活躍している。

◇「東日本大震災 被災地の気仙沼 商店街灯」をリニューアル 東京都市大学／7月12日付け

東京都市大学工学部建築学科 小林茂雄教授と角舘政英客員教授ら研究チームは、宮城県・気仙沼駅前商店街（商和会）を安心・安全な街にするため、照明灯の数を従来の3倍に増やすとともに、各場所に合わせた25種類の照明器具を設置するリニューアルを実施した。

道だけが照らされて、建物や周囲の状況が把握しづらくなっていた環境を整備し、建物際や駐車場なども照明のあたる範囲に加えることで、防犯性向上を目指した。また、灯具を水銀灯からLEDを用いるものに変更することで、照明数を3倍増しても、消費電力を約6割削減する「省エネ」の実現にも成功した。

リニューアル前後に行ったアンケート調査では、道の明るさが低下したにもかかわらず、「明るく感じる」「安心感がある」など、全ての項目が上昇したことから、「安心・安全」な照明環境作りには、道を中心に照らすのではなく、周辺の暗闇を照らすことが重要であることが分かった。

◇「神奈川県立座間高等学校」との教育交流に関する協定を締結 神奈川工科大学／7月17日付け

神奈川工科大学は、神奈川県立座間高等学校との教育交流に関する協定の調印式が7月16日、本学において執り行われた。調印式では、神奈川県立座間高等学校の小山修校長と小宮一三学長が協定書への署名を行い、今後の取り組みについての意見が交わされた。

◇芝浦工大とBCG、LINEを活用した学生支援ツール「SIT-bot」を共同開発 芝浦工業大学／7月25日付け

芝浦工業大学と経営コンサルティングファームのボストン コンサルティング グループ（以下、BCG）は共同で、芝浦工大の学生向けに学生支援ツール「SIT-bot」を開発し、2019年度より導入した。

SIT-botはLINEを活用しており、大学生活に関する問い合わせが気軽にできるチャットボット機能など6種類の機能を搭載している。SIT-bot開発の目的は、(1)学生の大学生生活の「利便性向上」、(2)大学職員の「働き方改革」の一環として、学生課などの窓口業務の負荷を軽減することにある。

導入開始初月であり、履修登録関連で窓口が最も混雑する4月には、チャットボットに最大で1日に800件以上の質問があり、また、芝浦工大・大宮キャンパスでは窓口への訪問者数が昨年と比較して約5割減少し、既に効果が見え始めている。

◇「1・2年生が東商リレーションプログラム」に参加 拓殖大学／7月17日付け

拓殖大学は、夏季休暇期間に実施する「東商リレーションプログラム」に1・2年生が参加した。こちらは都内の優良企業で1day職場体験ができる、東京商工会議所と共催のプログラム。今回は本学から45名が、東京商工会議所と提携する18の他大学の学生とともに企業を訪問した。